

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム きららの里		
所在地	山口県長門市深川湯本600番地の1		
電話番号	0837-22-7006	事業所番号	3571100126
法人名	社会福祉法人 福祥会		

訪問調査日	平成 20 年 10 月 15 日	評価確定日	平成 20 年 12 月 15 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 2 人 非常勤 6 人 (常勤換算 7.0 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 14,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
その他の費用	月額	19,000 円		
	内訳	光熱水費		

(4) 利用者の概要 (9月25日現在)

	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1		5	要介護4		
要介護2		1	要介護5		
要介護3		3	要支援2		
年齢	平均 84.4 歳	最低	75 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 福永医院 福永病院 歯科
-------------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

理念に基づき、職員は家庭的な雰囲気の中で自立した生活ができるよう支援しておられます。利用者は我が家にいるように、明るくいいきと生活され、笑顔とおしゃべりでにぎやかでした。玄関には施錠がなく、利用者は玄関前のフロアの椅子に腰掛け、くつろいだり、連れ立って散歩したり、職員と一緒に楽しんでおられました。

(特徴的な取組等)

毎回、全家族に運営推進会議の案内を出し、常時3~4名の家族が参加されています。家族との連携を図りながらサービスの質の向上に努めておられます。3ヶ月に1回ホーム内に「きらら喫茶」を開設し、利用者が接待などで活躍できる場面をつくられています。利用者は、喫茶に来られた隣接施設の利用者、ボランティア、地域の方などとの交流を楽しんでおられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の外部評価での要改善項目について全職員で検討し、地域との交流、第三者委員の選任など改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者は、評価を業務を振り返る場として捉え、職員の聞き取りや話し合いを行ない、運営者に確認してまとめられています。

(運営推進会議の取組状況)

地区長、民生委員、市担当課、家族3~4名、施設苑長、職員のメンバーで開催し、報告や話し合いを行ない、意見・要望などを聞き、サービスに活かすよう取り組まれています。毎回、家族全員に開催通知を出して出席を促しておられます。

(家族との連携状況)

毎月発行のホーム便りに担当職員が手書きの通信文を添えて家族に送付されています。面会時や電話、運営推進会議等で、意見や要望を聞かれています。

(地域との連携状況)

自治会には加入されていませんが、地域行事への参加を心がけ、法人が実施する夏祭り、ボランティアの発表会など地元の人々が参加する行事に参加されています。ホーム内に「きらら喫茶」を開設し、併設施設の方や地域の知人の方などと交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「家庭的な雰囲気の中で、笑顔のある生活の場づくり、その人らしく、自立した日常生活をおくる」というホーム独自の理念をつくり実践している。法改正後は地域との交流も視野に入れながら支援している。	・地域密着型サービスとしての理念の見直し
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を掲示し、日々のミーティングや勉強会で確認し、実践に向けて取り組んでいる。新規採用職員にも伝え、管理者の介護に当たる姿勢の中で示すよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会には加入していないが、法人の夏祭り、地域のボランティア主催の集いなど、地元の人々が参加する行事に参加している。ホーム内に「きらら喫茶」を開設し、母体施設の職員や利用者、地域の人と交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解しており、管理者が職員から聞き取り、話し合いを行い、運営者に確認して作成している。外部評価の結果を全職員で話し合い、地域行事への参加や第三者委員の選任などの改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	メンバーは、地区長、民生委員、市担当課、利用者家族3～4名、施設苑長、職員等で、報告や話し合いを行ない、意見・要望などを聞き、サービスに活かすよう取り組んでいる。毎回家族全員に参加案内を出している。	・メンバーの拡大(老人会、駐在所等)
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当課とは、運営推進会議の他、申し込みなどの時に情報交換をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便りに、担当職員が利用者の状況を手書きした通信文を添えて家族へ送付している。また家族の面会時や電話等でも状況を報告している。職員の異動はホーム便りや行事で報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	利用者・家族から気軽に話しかけられる雰囲気づくりを心がけ、面会時や電話、運営推進会議等で意見を聞いている。苦情等の対応は、申し立て窓口や外部機関を明示し、第三者委員を選任し処理手続きを定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	非常勤を含めて8名の職員を確保し、管理者は勤務の調整を行っている。緊急時には法人母体施設からの応援もある。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限にとどめ、変わる場合は利用者に説明をしている。ダメージを強く受けそうな利用者には、馴染みの職員が寄り添ってケアを行なうようにしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験年数や希望を聞き、外部研修に参加できるようにしている。新人研修は法人で計画されている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、北浦地区、市内のグループホームとの連携を取り、勉強会にも参加して情報交換している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	日頃から交流のある隣接施設のデイサービス利用者、見学や体験入所などで馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	職員は家庭的で温かく、楽しい雰囲気づくりを心がけ、利用者から「とこ漬け」などを学んだり、利用者の自立を促すよう、来客時の接待、料理、味付けなど支えあう関係づくりを実践している。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者の日常の言動から、思いや意向を記録し、月1回担当職員がミーティング等で検討している。	
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	利用者、家族から意見や希望を聞き、日常のミーティングで意見を出し合い、介護計画を作成している。 介護計画は、他の簿冊で評価を確認しながら作成している。	・介護計画作成に関する書類の再検討
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	月1回介護計画の見直しをしている。利用者に状態の変化があった時には、家族、関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	通院の送迎や付き添い、美容院の送迎、買い物、自宅近くへのドライブなど、利用者や家族の希望にできる限り添うよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	従来のかかりつけ医を受診している人は、家族が同伴している。緊急時や家族の希望がある場合は、通院の送迎や援助を行うなど適切に支援し、家族に情報を伝えている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期には、他の施設を利用するなど、適切に対応をすることを契約時に家族に説明し、同意を得ている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーには配慮しているが、時に馴れ馴れしい言葉掛けがみられた。記録は事務室内に保管している。	・接遇研修の実施
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おおよその決まりはあるが、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい生活ができるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝・昼食はホームで作っており、調理、配膳、片付けなど一緒に行っている。食事と一緒に食べながら支援している。当日の昼食は「いなり寿司」、おやつは「おはぎ」と利用者の希望を聞き、楽しく作っていた。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日14時～17時まで可能であり、利用者の希望や体調を確認しながら入浴を支援している。訪問時、入浴をすませた利用者が気持ちよさそうにしていた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生花、大正琴、貼り絵、テレビ視聴、新聞・雑誌を読むなどの趣味や楽しみごとや、おやつ作り、食材の下ごしらえ、料理、配膳、片付け、掃除、洗濯物たたみなど、活躍出来る場面づくりをして支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	敷地は広く、玄関は開放され、利用者同士連れ立って職員と一緒に散歩に出かけたり、買物、ドライブなど、外出が楽しめるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の見守り体制があり、玄関は開放され、利用者同士が玄関前の椅子で自由に楽しくおしゃべりや日光浴をしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、定期的に法人の研修会に参加している。ヒヤリはっと・事故報告書を基に改善策を検討して記載し、再発防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	母体施設で応急対応・AED講習を受け、法人の訓練に参加している。定期的な訓練が実施できていない。	・ホーム内での勉強会実施の工夫
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害マニュアル、緊急連絡網を作成し、年4回火災避難訓練を行なっている。そのうち2回は夜間を想定した訓練を行なっている。避難場所の確認もできている。地域から遠く、母体施設の協力が基盤となっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は、個人毎に処方表を作成しているが、副作用、用法などの記載がなく理解しにくい状況である。薬は手渡しで服用を確認し、症状の変化があれば医師に報告し相談している。	・薬について情報収集の検討
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりのペースに合わせて声掛けをし、口腔ケアの支援している。週1回義歯の洗浄を行ない、随時、歯ブラシ・コップの清掃、保管の支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し把握している。水分は、好みの飲み物を提供している。年2回法人の栄養士が助言している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症対応マニュアルを作成し必要時に対応できるようにしている。手洗い、消毒、うがいを実施し予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	利用者全員が、玄関前の椅子や食堂などの共用空間で自由に過ごしている。玄関や食堂の窓辺には、利用者が習っている生花、テーブルには季節の花、壁には行事の写真や共同で作った季節を感じる作品(毎月更新)が飾られている。明るさや音も適切であり、食事時間はテレビを止めて会話を楽しんでいる。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の愛着のある家具を持ち込み、写真を飾ったり入り口にのれんを下げて居心地よく過ごせるようにしている。居室から外の景色が眺められるよう工夫されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人 福祥会 グループホーム きららの里
所在地	長門市深川湯本628-1
電話番号	0837-22-7006
開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日

【サービスの特徴】

ひとりひとりがその人らしい生活を送ることができるように、臨機応変に生活支援を行っています。
入居前には、ショートステイを利用し、安心した馴染みの関係を作った上で利用する事が出来ます。母体施設との連携が密で、合同の行事や日々のふれあいも出来、楽しみのある生活を支援することができます。

【実施ユニットの概要】 (9月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム きららの里			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護1	5	要介護4	0
	要介護2	1	要介護5	0
	要介護3	3	要支援2	0
年齢構成	平均 84、4 歳	最低 75 歳	最高 89 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者が中心となり、現場スタッフに聞き取り、話し合いを行い、運営者に確認をする形で実施した。
評価確定日	平成 20 年 9 月 25 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		日々のミーティングの中でも折にふれ理念を伝えるようにする。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		来訪者や家族の面会時や行事参加の際にも折にふれ理解して頂ける機会をつくる。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		近隣住居から離れた位置にあるため、付き合い方が難しいが、利用者とともにクリーンウォークをするなど工夫したい。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		地域自治体や老人会との交流に努める。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		ヘルパーを通じて地域の高齢者の暮らしに役立つ事を探すよう努める。 ウエス作りなど。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し改善に努めている。	外部評価を初めて経験する職員への理解を深める。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では、実際の事業所内の様子を理解してもらえる酔う努め、参加者それぞれから意見をいただくよう努めている。	会議参加者を広げる取り組み。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市のグループホーム担当職員と交流を図り、事業所内の様子を理解して貰えるよう努めている。	より細やかに意見交換できるよう取り組む(定期訪問など)
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在権利擁護利用者が3名おり、それぞれのケースから学ぶ機会を持つよう努めている。	新職員にも学ぶ機会をつくる。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については、折にふれ学ぶ機会を持ち、十分注意してケアにあたっている。	それぞれの職員が気付き合い、意見し合える現場づくりに努める。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約ともその前後期に於いて、書面・口頭合わせてわかり易い説明に努めている。	解約時に要望や疑問に対し様式を作成し、納得を得られたか検討したい。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に職員に気軽に意見を聞かせていただける雰囲気づくりに努め、その都度納得できる対応を心掛けている。また介護相談員の活用を行っている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回通信文にて状況報告を行っている。来訪時や場合に応じた電話連絡も行っている。職員の異動については、通信文や行事にて報告の機会を作っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求に応じて対応するが、これまでは要求の実情がない。		情報開示について入居時に口頭で説明しているが、書面を作成する。 退居時開示の要求を確認する。
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情処理手続きは明確に定め、来訪時にわかりやすく明示している。また、入居時・退居時に文書および口頭で説明している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議で運営者を含めての検討の機会を設けている。又、年2回は現場職員のほぼ全員参加での会議をしている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	併設施設の応援をとり入れ、必要な職員確保に努めている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	複合施設による運営の為、全く異動のない状態を保つことは難しいが、極力最小限にとどめるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	それぞれの経験年数や意欲に応じた研修に参加できるように努めている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の資質及び性格等を考慮し、配置に努めている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北浦地区グループホーム連絡会に職員を参加させ、ネットワーク作りや勉強会、相互間の情報交換によりサービスの質の向上に努めている。 市内のグループホームとも連絡をとるよう配慮している。		喫茶などの行事への参加の働きかけをし、新しい交流の機会をつくる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		入居時及び随時家族に対し他のサービス利用について説明を行い対応に努める。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来訪時、対等であるよう努め、出来るご家族には月1回の意向の確認をし、行事の祭に共に参加していただくなど、一緒に支えられる関係づくりに努めている。		意見の出にくい家族について、より意向を聞き出すことのできるよう働きかけに努める。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居時及び普段のかかわりの中で、本人や家族からの話を丁寧に聞き理解に努めている。		行事の際、出来る限り参加を呼びかけ、通信文を通してより良い関係づくりの働きかけに努めたい。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会の自由、継続に努め、喫茶などの行事を機会に来訪して頂けるよう働きかけている。		特に入居時、その以前の関係のアセスメントを行い来訪、又一緒の外出など支援していききたい。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者間関係について職員間で情報共有し、ケアプランにとり入れ、見守り、時に間に入るなど支援している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	併設施設、また他施設に行かれた方の訪問、招待をし関係継続に努めている。 入院者へは時に面会を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回各担当職員が把握に努め記録している。		本人の具体的な言葉、更に本人本位の把握に努めて行きたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人及び家族から聞き取りを行っている。また必要に応じて利用していたサービス事業所からも情報提供して頂いている。		日常的にも聞き取りで得た情報を職員が共有できるよう、様式を利用していききたい。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ひとりひとりの行動に留意し、気付きはミーティングを利用し、職員間で情報共有し、ケアプランにあげている。		細かく各々の1日の流れについて記録化し統一した対応が出来るようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	普段のミーティングの際、それぞれの職員が意見を出し合い、担当職員と計画作成の話し合いを行っている。本人や家族からは随時意見を聞き、取り入れている。	話し合い可能な家族とてまず意見交換をしていきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月1回の介護計画の見直しと出来る限り状況に即した対応する為に、場合に応じて本人や家族と話し合いを持ち計画作成に反映するよう努めている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の様子やその都度の対応を日々個別記録日誌に記録し、情報共有に努め、月1回の介護計画に活用している。	介護計画と相互のつながりができるように記録方法を検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望は出来る限り聞き取りし、事業所内で出来る限りの範囲で要望に応じるよう努めている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議や行事を通じて、民生委員やボランティアとのつながりを持ち支援に努めている。	防災訓練を通じて消防や警察との繋がりを持ち支援に活かせるよう努めたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	家族やボランティア、学生の実習を利用者のケアに支障のないように受け入れている。	認知症の理解を深めて頂くための地域の子供達の訪問など受け入れについて働きかけを行いたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人や家族の意向の確認には努めているが、現状では他のサービスの利用の要請はない。	要望に応じて他のサービスとの連携を取っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括センターと協働するよう、来訪の依頼や相談を行なっていきたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		他の医療機関との相談窓口について明確にし、連携に努めたい。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		重度化又は終末期の利用について本人及び家族の意向を聞いてみる。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同上	
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		住み替え前からの情報交換な努め、事前に住み替え先で過ごすなどの工夫を行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	職員はそれぞれにプライバシー尊重について学び、対応には十分気を付けている。	日々のミーティングでのその都度のチェックやそれぞれに注意し合える現場づくりに努める。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	普段から個々に合わせた対応ができるよう努めている。	個々のわかる力や納得する事を職員が情報共有し、より良い対応ができるよう努めていく。
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	普段から職員が個々のできる事への発見に努め、支援にあたっている。個々の把握のためのチェックシートを活用し把握している。	日々のミーティングで細かく情報収集を行い、記録していく。
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	個々のその日の状態を把握し、出来る限り希望を汲み取って、本人に合わせた支援に努めている。	日々のミーティングで一日の流れが職員のペースではなかったか見直しを行なうようにしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	本人家族の方の希望で母体施設の訪問美容を利用している。行事の際など機会ある度お化粧ができる環境をつくっている。	日々の誠意活の中でおしゃれの支援に努める。希望があれば外の美容院への支援をする。
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	調理・配膳・片づけはそれぞれの入居者のできる力を活かし、できる限り協働で行なっている。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	おやつ・飲み物は日々個々の希望を聞き、持病の悪化を招かぬよう留意して楽しめるよう支援している。	タバコは希望はないが、お酒は少し希望があり、まずは行事から取り入れたい。
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	個々の必要性を重視し、紙パンツの使用、トイレの誘導と本人に合わせた支援を行なっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は14時から17時と限定されている。その都度本人の意向を確認し、毎日入浴を支援している。		本人が入浴したい時間にできる環境づくりを検討したい。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日中夜間の双方、本人のペースに合わせ、一部には医師の指示のもと服薬も取り入れ、休息・安眠を支援している。		常に安眠についての工夫を考え、できる限り服薬に頼らない支援に努める。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	普段から本人及び家族に生活感や得意分野についての情報収集をし、個々に合わせて支援している。		日々のチェックシートと共に生活歴やできる力のシートを作成し、職員が正確に情報共有できるよう努める。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	通常は預かり金をし、能力に応じて個々の買い物で支払いをしたり自動販売機で飲み物を購入するなど支援している。		個々にお金を使う大切さを職員が深く理解できるようミーティングなどで勉強しあう。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物・通院・散歩などの外出を支援している。		事故など危険のない範囲で個々の希望に沿った外出支援をケアプランにあげ実施する。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月一回程度の外出行事で希望を取り入れたり、家族参加を勧めている。		同上
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望のある利用者には相手の意向を確かめた上で支援している。		通信文送付の際本人にも一筆書いていただくよう働きかけを行なっている。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問できる雰囲気づくりに努めている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	現在希望がなく実施なし。		希望により、食事代などを支払い宿泊対応を行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		日頃のミーティングなどで個々の職員がお互いをチェックし合い、気軽に改善できる環境づくりに努める。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		事業所独自の勉強会を実施したい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		事業所独自の訓練も実施したい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリハット報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		職員個々が「ヒヤリ・ハット」への意識を高めより改善策を講じる機会を増やす。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。		
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		個々の排便の正確な把握が難しく、定期的な腹部のチェックなど行なっていく。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		特に自歯の方の定期的な口腔内チェックを実施したい。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		衛生チェック表を作成し活用して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関や花壇作りをし、親しみやすくなるよう努めている。	外観が楽しくなる工夫を重ねていく。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	職員はそれぞれ常時環境に気配りするよう努めている。又その都度利用者の意向を聞き取り工夫に取り入れている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同空間は限られており、一人で過ごす事は困難であるが、入居者同士楽しく過ごす空間作りをするよう努めている。	玄関や廊下スペースも利用し、思い思いに過ごす事のできる工夫をしていく。
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、又は日常的に本人の状況、家族への相談を通し工夫に努める。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員は常時温度調節に気配りし、また利用者の状況に合わせた対応を行なっている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	個々の身体状況に合わせて活動できるよう、その都度工夫し臨機応変に対応している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々に合わせて表示を工夫したり、自尊心を傷つけない声かけを行い、自立を支援している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇作りを行なっている。 母体施設の空間も利用し活動を支援している。	外周りの整備を行い安全に活動できるようにしたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> たまにある	<input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="radio"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> たまに	<input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="radio"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない